

2021年度
事業報告

特定非営利活動法人 就労ネットうじ

ゆめハウス（就労継続支援A型・B型）/みっくすはあつ（就労継続支援B型）

2021年度事業報告と2022年度にむけて

はじめに

2021年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の対応に追われる一年となりました。当法人でもみくすはあつで感染が広がり、保健所と連絡をとりながら2週間ほど利用通所を控え、利用者とそのご家族、職員や関係者皆様の生活が大きく影響を受けました。

未だ予断の許さぬ状況が続いていますが、利用者の生活と健康、それを支える職員を守るため引き続き感染防止に努めながら活動を進めていきます。

合わせて2020年度と同様に工賃にも大きな影響がありました。2021年度も福祉関連団体や行政と連携し、協議を重ねながら、みくすはあつで56万5千円の工賃補填を得て、利用者の工賃維持につなげる事ができました。

引き続き制限ある中ですが、活動の工夫と変化を取り入れながら「生きる力」につなげる実践を大切に進めていきます。

また、4月からの新報酬改定実施については、法人が今まで地域に視点を置き、多様な団体とつながりながら興してきた取り組みを否定された思いがあります。特に施設外就労加算の廃止は大きく影響しました。しかしこの改定により、法人理念に伴う活動が変わるわけではありません。これまでの取り組みを検証し、ノウハウを活用し、より広い異業種と意見交換を交えながら進めてきました。その結果、年度当初マイナス予算での事業開始でしたが、どうにか縮小せず維持できた事と合わせ、ゆめハウスではA型・B型とも賃金、工賃アップにつなげる事ができました。

引き続き次期報酬改定の検討が進む中、共に生きるための社会制度の構築を実践から伝えていく事と、日々知恵を絞りながら目の前の活きた実践を大切に、法人理念である「ともにある」のもと、活動を継続していきます。

2021年度事業報告と2022年度にむけて

2021年度を振り返ると3月に発生したクラスターの影響を受けましたが、利用者、保護者、職員、関係機関の支えがあり「日常のはたらく」を取り戻せました。

頂いた助成金などを活用し、更なるコロナ対策・予防対策を強化しました。各車両には、次亜塩素酸水を常備し、各作業場には二酸化炭素濃度測定器を設置しました。基本のできることを中心に今まで以上に意識を高め、普段の安心に繋がります。

事業では、社会福祉士・主事の養成実習やボランティア演習、地元の高校での講義の機会を頂きました。コロナに留意しながら例年以上の取り組みになりました。「身近な方に伝える」を大事にし、たくさん発信できたことは私たちの自信に繋がりました。

作業では、非常事態宣言・まん延防止法の期間が長かったこともあり常設店舗の売り上げが昨年度よりも落ち込みました。観光客も地元の方も通られず商店街が閑散としていました。その中でも新たな取り組みとして、他事業所とコラボをしながらイベントに合わせた取り組みや商品のラッピング等、試行錯誤を重ねチャレンジしました。次年度に繋がる機会と捉えています。

土日等の出店機会が少ない分、清掃作業の機会を増やしました。今年度新たに広野公民館清掃、山城北保健所清掃、集会場清掃、個人宅清掃などにも取り組みました。広野公民館清掃は、他の事業所と一緒に連携を取り曜日ごとに担当を決めて実施しています。この共同での取り組みを次の展開に活かしていきます。

在宅支援では、エコボールや組紐作業に取り組みました。在宅支援利用者の作業がとぎれないように努めました。コロナ禍の中、外に出ることが難しくなり在宅作業ならと作業を継続して取り組める方も数名おられます。多様な働き方のひとつとして定着しています。

2022年度は、作業収入の確保に向けて、現在の作業内容、作業効率の見直し等、また新規作業の獲得等についても推し進めていきます。連携企業や連携事業所の繋がりを広げ事業所としての可能性をより探りたいと思います。

多様な働き方についても、より個々人の想いや願いに対応できるように、日々柔軟性を持って取り組んでいきます。

みんなで働く喜びを大事にし、相互理解を深め、受容し認めあい、尊敬しあえる職場を目指し「人としての豊かさ」に繋がっていきます。

かんしゃ工房（就労継続支援B型）

2021度は目標として、主に作業収入の獲得・清掃作業の定着・作業での実績を残していくことに意識を向けて取り組みました。2020年度と比べると新型コロナウイルスによる影響はみられたものの緩やかであり、受注作業のエコボールでは、預かり～納品までの流れを意識しながら良い循環を生み出せ、利用者のやりがいにもつながっていききました。

自主製品では、景品や啓発物品として組み紐プレスレット・つながり鉛筆・マグネットなどを受注し、納品することができました。また、新たにみくくすはあつオリジナルの栞（ブックマーク）を作成し、数百枚納品することができました。それぞれの個性から生まれる製品が納品されていくことで、より日々の取り組みに楽しみを感じることができました。

宇治市内の公園清掃業務では、清掃箇所の増加があり、よりやりがいのある作業として定着・継続することができました。

SDGsバッジ（やすりがけ・金具付け・梱包）作業は新型コロナウイルスの影響により受注数の減少はあったものの、コースターのやすり掛け作業は時々いただき、作業に取り組むことができました。

そのほか、地域でのつながりではローソンでの清掃作業・個人宅での清掃を継続して取り組み、新たに広野公民館の清掃・株式会社アクスでの除草作業などの契約もあり、信頼関係の構築・つながりの拡大・実績を残す新たな機会となりました。地域での活動を通して、相互理解や新たな作業が増えたことでの刺激もあり、楽しみながら日々作業に取り組むことができました。

また、昨年度に比べて少しではありますが作業収入も上昇傾向にもあり、実績を残しながら継続する事の大切さを実感できました。

- エコボール納品数：乙訓高校386球/豊中ボーイズ314球/摂津リトルシニア182球
東山高校931球/(株)瀬川染工：瀬川様23球 計1836球
- SDGs 作業納品数：バッジ465個/コースター490個 ※やすりがけ1個8円
- 自主製品納品（啓発・景品）：
組みひも/組みひもストラップ/オリジナル葉/つながりえんぴつ/ その他出店販売など
- ローソン清掃作業：
除草作業：ご依頼時に除草作業や配管洗浄・グリストラップの洗浄。
- マンション清掃：今年度は例年通り 6月、11月の2回実施。機械を新たに追加し、作業の質・効率が向上しました。
- ポスティング：今年度より 毎月2回に増加。ひだまりハウスより委託を受け小倉地域へポスティング。 ※ 1回2000枚/作業費3円
- ポスティング（ホットスマミー）：小倉地域に新しくできた弁当屋のオープンに向けてのチラシをポスティング。* 実績2841枚/作業費7円
- 広野公民館清掃（日常）：週2～3回程度日常清掃を行いました。
- 広野公民館清掃（定期）：毎月第一月曜日にワックスがけ・エアコンや蛍光灯の清掃ポリッシャーなどを使用した定期清掃を行いました。
- アクス畑除草作業：
株式会社アクスの畑にて、雑草の多い夏季に合わせて除草作業を行いました。
- 個人宅清掃：つながりや、チラシを見た方から個人での依頼を受け、清掃や除草作業などその依頼内容に合わせて実施しました。

うじ・はんどめいどショップ（就労継続支援B型）

2021年度も、新型コロナウイルスの影響による観光客、商店街の人通りや、各出店販売の減少があり、全体的に売上減少の一年でした。しかしコロナ禍の中でも地域の常連のお客様の来店や、宇治市役所・振興局・オープンカフェ販売など出店販売での安定した売り上げが得られました。

ショップで販売をしていた野菜を、出店販売でも販売するなどにより売上安定に繋げることができました。改めて地域の方との繋がり、お店として臨機応変に対応する事、人々が求めている商品を提供する重要性を再認識しました。

- ショップ利用者 5名（月：3名・火～金：2名・土：3名）2022.1～1名増加。
- 体験（利用者） 2名
- 社会福祉士養成学生 7名

評価

- 店頭販売
新商品や、おススメ商品の販売、ソフトや綿菓子の販売を行いました。
- 宇治市応援クーポンに登録店舗として参加
利用されるお客さんが増え収益に繋がりました。
- 衛生管理法改正に基づき、衛生管理計画を作成
日々の記録、店内・トイレ等清掃の重要性確認、実施しました。
- 在庫整理の取り組み
お客様の減少（コロナ禍）について、お店としての対応を、利用者、職員ともに話し合い、店内の整理、陳列を実施。『商品が見やすくなった』との声を頂けました。
- 多様性のある働き方
利用者一人ひとりの「働きたい」という想いに耳を傾け、日々の中で個別に実践しました。
- 個別支援計画に沿ってショップ体験に来た利用者や、支援学校からの体験実習生、社会福祉士養成学生等のソーシャルワーク実習生の受け入れを実施。一緒に取り組む事で、良い刺激となり、お互いを認め合い助け合うことで、ともに働くことを実践できました。
- バレンタインでは、限定商品としてチョコレートをイメージしたマグネットや他作業所とのコラボ商品を新たな取り組みとして販売することができました。

売上平均

- はんどめいど商品（仕入れ商品） 21,334円/月平均
- つながり商品（地域の方の手作り商品） 10,401円/月平均
- 作業所商品（他作業所の手作り商品） 31,898円/月平均
- 自主製品 13個/月平均

売り上げ比較表

2020年度・2021年度

2020年度	売上金額合計	2021年度	売上金額合計	売上増減
4月	177,140	4月	123,890	-53,250
5月	31,060	5月	46,410	15,350
6月	133,030	6月	68,850	-64,180
7月	136,160	7月	53,370	-82,790
8月	97,755	8月	62,650	-35,105
9月	104,505	9月	76,230	-28,275
10月	153,485	10月	98,600	-54,885
11月	138,780	11月	146,290	7,510
12月	76,395	12月	104,130	27,735
1月	59,060	1月	47,940	-11,120
2月	76,601	2月	55,940	-20,661
3月	79,135	3月	25,080	-54,055
合計	1,263,106	合計	909,380	-353,726

企業内実習 ホームケルン株式会社（就労継続支援B型）

ホームケルン株式会社は社会環境を考え、石炭やコークスの代替燃料であるRPFを製造している会社です。その企業内工場（2階のベルトコンベアー作業室）で、企業資源廃棄物(資源物)の再生処理における仕分け作業（紙・ひも・ビニール袋・銅線・ねじ・鉄等）の一部を担っています。

基本的な内容は企業の職員から指示をいただき、利用者への作業指導はみつくすはあつ職員が行い、現地までの送迎及び、仕分け作業を一緒に取り組みました。

作業収入はすべて、利用者の工賃に還元。

「2021年度の作業収入実績」

2021年4月～2022年3月までの間、235日稼働/470万円でした。

*3月のコロナウイルス感染によるクラスター発生に伴い、5日間作業停止。

利用者

基本通所時間 8時00分～16時45分（移動時間を含む）

通所曜日 月・火・水・木・金（祝日は除く）

作業時間

9時00分～16時00分（ホームケルン企業内作業）

評価

- ・「施設外就労」として、安全な作業環境を確保する為に利用者同士で声の掛け合いを徹底しチームとして協力し、作業に取り組むことができました。
- ・チームとして取り組む利用者間の人間関係の変化についても、その都度ミーティングを行い、コミュニケーションを通して対応することができました。
- ・新たにメンバーとして1名・復帰1名の利用者があり、メンバー間の相互理解や活気につながりました。
- ・利用者以外にも、社会福祉士養成学生等のソーシャルワーク実習（体験機会の場として）にも有効活用できました。
- ・コロナ禍で稼働を続けるにあたり、換気や蜜にならないように人との距離を確保、手指消毒の徹底、食事時の黙食等に取り組み、感染の予防に努めました。

啓発（就労継続支援B型）

2021年度も新型コロナウイルスの影響で色々な活動をしていくうえで、様々な制約を受けることになりましたが、その中でも前向きに取り組んできました。

地域の事業所と一緒に大きな要望をする国会請願署名は『宇治市の小倉にある事業所からのお願い。』として街の中での署名活動は取り組めませんでした。個々で署名を集める活動は出来ました。

評価

- 日々の取り組みでは機関誌や便りの発行、ホームページやブログなどでの情報発信や、実習生の受け入れなど行うことができました。
- エコボール活動ではボールの受取りや納品時の野球部員たちと交流し、つながりも強くなってきています。
- 地域の中学校、高校、イベントの講師派遣にコロナ禍の影響がありましたが、城南菱創高校に講演に行くことができました。（利用者5名、職員1名）講演料は利用者の工賃に還元しました。
- きょうされん全国大会、新型コロナウイルスの影響で2021年度はオンライン参加。
- きょうされん洛南ブロック東北震災支援の募金活動（毎月11日前後）は、新型コロナウイルスの影響で取り組めませんでした。東北の作業所で作ったカレーを仕入れ、販売するなどに取り組みました。

支援者実習

- 2021年度も実習委員会を組織し、実習日誌のコメント記入に現場の職員が関わるなど実習受け入れに関しての共有にも力を入れました。
- 新たなつながりとして華頂社会福祉専門学校（社会福祉士実習20日間、1名）の他、京都医療福祉専門学校（福祉メディカル科8日間、2名）、京都医療福祉専門学校（心理メディカル科8日間、2名）、京都医療福祉専門学校（福祉メディカル科12日間、2名）と今年度7名の学生に選んでいただくことができました。
- 1ヶ月以上の長期間の実習に取り組んだ実習生には非常に深くかかわる機会があり、実習生の家族、友人、学校、地域へと持ち帰り啓発活動につながったと思います。実習生の受け入れも長期間一緒に過ごせば過ごすほどかけがえのない時間となり、利用者、実習生、職員、それぞれお互いに学び合って成長する良い機会になっています。
- ボランティア体験（京都文教大学ボランティア演習）や福祉体験などの取り組みも継続して実施しました。障害のある人と関わるのが初めての方達もおられたが、体験を通して障害のある人に対する親しみを感じてもらえたことや、その後もボランティアに継続してきていただいていることは嬉しい出来事です。

2021年度事業報告と2022年度にむけて

2021年度も新型コロナウイルスの感染予防の対応に追われました。

利用者とその家族、そして職員の安全を第一優先とし、行政を交えながら相談や必要な衛生管理に係わる助成金、また工賃維持のための京都府独自の工賃補填の動きと合わせて、職員への影響も大きく、時には両立支援等助成金も活用しながら進めてきました。

このような状況ではありましたが、その都度工夫を凝らし、「多様な働き方を目指す」その実践に向き合った一年でした。

その結果、B型では、部門ごとに融通性を活かし柔軟な対応と支援に相談を重ねながら取り組みました。具体的に、少しずつ2020年度より作業ウエイトに工夫を加え、新たな取り組みにも挑戦しました。結果、工賃では時間給を169円から240円にアップできた事、年度末には就労時間に応じて総額1,009,800円のボーナスを支給することができた事など、大きな成果となり、何より利用者一人ひとりの働く意欲につなげる事ができた事は大きな喜びとなりました。

またA型事業では、継続課題であった独自の業務評価基準の運用をはじめ、個別のモニタリングを通しながら、利用者と現状の確認を繰り返し進めてきました。留意する事は、個別的に「できる・できない」の作業遂行能力ではなく、今まで大切にしてきた、チームでの働きと、働く姿勢に着目した基準としています。その変化としても、個々の自己評価から働く意識の変化につながり、それが業務の広がりにつながりました。2022年度も引き続き検証しながら活かした内容になるよう取り組みを進めていきます。

作業以外のプログラムでは自治活動の「ゆめ会議」を通し、どうしたらできるかを考えながら、日帰り旅行なども安全に楽しく思い出に残る取り組みとなりました。

引き続き「ともにある」の理念を掲げ、多様な視点と相互作用を活用し、目の前の実践を大切に駆け抜けていきます。

くりーんねっと（就労継続支援A型）

全体

作業内容の変化にも対応しながら、日々の姿勢から作業の質まで向上することができました。

施設外支援の清掃業務（1名）に関しても、新規に利用者が、日々の積み重ねにより身につけた自信や技術を活かし、積極的に取り組むことが増えました。

月1回のミーティングの場を活用し、日々の中での問題点・改善点など自分たちで話し合うことを大切に、チーム作りや働く姿勢等個人のスキルアップとチームワークの向上、積極性や自主性、意欲的な働きを身につけるように心がけました。また、感染対策として車内には常にアルコール除菌を配置し、作業後には必ず消毒を行うことで、継続して仕事に取り組むことができました。

独自の評価表（特別清掃への参加の有無）をもとに取り組みを進めたこともあり、各々がA型の意識を持って作業に取り組む姿勢が見られました。以前から掲げている「賃金の向上を目指す」という目標に則りさらなるステップアップを図ることに繋がりました。週20時間以上の勤務は継続し、新規業務へも積極的に参加し、雇用者としての自覚を持って日々の業務に取り組むことを目指し、個別支援計画をもとに進めています。

今後も継続課題として最低賃金の引き上げに伴った賃金支払いのバランスの確保が挙げられます。合わせて、個別支援計画やモニタリングにおける本人との相談を通し、「多様な働き方」を継続し目指していきます。また、独自の評価基準に関して、1年を通してある程度の感覚は掴めた為、業務内容の変化、週間の動き、ゆめハウス全体の動きに合わせて、評価内容を少しずつ変更していくことも検討しています。（技術的な部分に焦点を当てるのではなく、作業姿勢やチームワークなどに注視していく）

利用者

A型利用者数 5名（2022.3.31現在）

B型利用者1名 A型へ移行（2022年4月より）

B型利用者のA実習（2～3人）

特別清掃時、専門機器を扱う利用者の増加。

基本通所時間 10時～16時

労働時間 週20時間以上30時間未満

通所人数 1日 4～6名

作業場所

- ・産業振興センター 全館清掃（日常清掃・特別清掃）
- ・宇治公園橘島公共便所清掃
- ・東宇治地域福祉センター（日常清掃・特別清掃）
- ・円蔵院
- ・サクラハイツ
- ・福祉会館浴室清掃（9月終了）
- ・ライオンズマンション宇治第2（日常清掃・特別清掃）
- ・伊勢田地区公園除草作業（5ヶ所）
- ・小倉明星園デイサービスセンター（日常清掃・特別清掃）
- ・大山医院（日常清掃・特別清掃）
- ・その他 特別清掃依頼に対応（年間1～2回）
- ・住宅供給公社除草作業（2ヶ所）

ゆめハウス（就労継続支援B型）

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が発令され、活動の幅の制限がありましたでしたが、前年度の経験も活かしながら、大きな停滞がなく1年活動できました。

その大きな要因としまして京都市市営住宅（向島5街区、淀際目）の除草作業が始まり、年間を通してコンスタントに動き続けることが出来ました。初年度という事もあり手探りでのスタートとなりましたが、徐々に職員・利用者ともに流れをつかみ、また住民の方にも認知されるようになり、励ましや感謝の言葉をいただくことが増えるようになり、作業に対するモチベーションにつながりました。1年を通しての実績の成果が次年度の新規の作業場所の増加へとつながりました。（A型事業として他事業所と合同で1ヶ所の作業を担い、他2か所は別事業所がそれぞれ単独で担います）

自治組織である「ゆめ会議」は月1度のペースで定期的に行っていました。会議で話し合いを行い、アンケートをとり、お楽しみとして事業所内で映画鑑賞会を実施しました。次年度に向けては、より利用者を主体とした自治組織に向け、ゆめ会議の中で実行委員会を立ち上げ、その方たちを中心とし進行できるように進めていきます。

日帰り旅行は新型コロナウイルスの状況も鑑みて、今までのように全体ではなく、グループごとに分かれての実施となり、緊急事態宣言が出た際にも柔軟に対応ができました。電車旅やアウトレットでショッピング、遊園地やお笑い鑑賞など利用者の希望から組み立てた8つのコースに分かれ、安全にも配慮しながら余暇を楽しむことができました。

また季節のお楽しみとしてのクリスマス会は、前年度新型コロナウイルスにより実施できなかった新年会のことにも反省に生かし、開催時期を考慮して新年会も兼ねた食事会の形をとりました。グループごとの食事会となり、会場も近くの連携事業所で行い、地域の中でのつながりも大切にしたいイベントとなりました。

清掃では前年度から通常清掃は引き続き実施し、加えて地元企業（清掃会社）との連携ができ宇治市の施設（西宇治公園プール清掃）の清掃を行うことができました。

また施設外実習ではCoco壱番屋で開店の準備、厨房作業など引き続き体験を重ねることができ、利用者本人にとって大きな自信につながっており、店側にとっても働く従業員の障害への理解が深まり、誰もが働きやすい職場へ変わりつつあり、支援学校から実習の受け入れをされるなどプラスの作用が出ています。

10周年記念事業の中で啓発を目的とした絵本『トビウオくん わかんない』（法人理念を主とした内容）を使用した活動は今年度の実施はありませんでしたが、市役所ロビー展示会などでPRを継続しています。

2022年度も状況として制限される場面があるとは思いますが、ここ2年間の経験も活かしながら引き続き前向きな展開をしていきたいと思っております。

利用者

B型利用者数 30名（2022.3.31現在）

A型実習体験者数 7名（通常清掃、特別清掃含む延べ人数）

施設外支援 2名

就職者 1名

基本通所時間 10時～16時

通所人数（月～金）16～19名/日（土）6名/日

作業内容

・ゆめカフェ（毎週金曜日）

・工房

・出張喫茶（物品販売）＊出店販売年間 92回

・通常清掃 4ヶ所＋A実習2ヶ所

（服部医院、森田ビル、宇治市役所除草、米坂墓地）

【A実習】宇治市総合福祉会館（9月で終了）、宇治公園橋島公共便所清掃

・特別清掃 1ヶ所

（西宇治公園プール清掃）

・リサイクル（古紙、プルトップの回収、販売）

・下請け（昇苑くみひも…パッケージ〈12月で終了〉、田辺染工…着物解体）

・製菓

・啓発（絵本「トビウオくん わかんない」を使用した活動など）

・企業実習

エコボール（硬式野球ボールの修繕）

協力学校・チーム

- ・大阪産業大学
- ・奈良県立香芝高校
- ・高槻リトルリーグ
- ・岐阜中濃ボーイズ
- ・寝屋川中央リトルシニア
- ・春日井ボーイズ
- ・大阪学院大学高校
- ・高槻オールブラックス

【新規 3チーム】

- ・B-BACKS
- ・東近江バイオレッツ
- ・枚方ボーイズ

年間修繕数

1095球（※皮張替え581球）

評価

2021年度は新規で3チームとの繋がりを持つことができました。現在3チーム加盟され合計11チームとなっております。2021年度は前年度に比べ200球ほど多く、修繕することができました。エコボールの作業が滞ることなく、常に継続して作業できた事が2021年度の成果につながったと思います。また毎年2月に予定されていた全国集会は新型コロナウイルスの状況もあり、2021年度も中止になりました。

前年度から引き続き、全国の他事業所からの問い合わせがあり、見学に来て頂き実際にエコボール事業に参入された事業所が3施設増えました。エコボール事業が年々全国に拡大していると実感しています。

工房（自主製品）

さをり製品

- ・シヨール（京都府敬老祝い品）45枚納品
- ・染め和紙織り（念珠入れ・通帳入れ・名刺入れ・ティッシュケース・コースター）
（コースター）
- ・京都新聞福祉事業団 1840枚（2枚組920セット）
- ・発注元 いたるセンター（ほっとはあとセンターより）300枚
- ・宇治市人権啓発物品 300枚
- ・ゆめハウスより年末御礼品として 140枚（2枚70セット）

ぶらり嵐山、うじ・はんどめいどショップ、各種出店等で販売

- ・糸製品としてランチョンマット、コースター、マフラー

刺し子製品

（ふきん）

- ・中山東町内会 106枚
- ・宇治市（環境企画課、健康生きがい課） 300枚
（ハンカチ）
- ・キョーシンオート 50枚
（手ぬぐい）
- ・天ヶ瀬苑 40枚

うじ・はんどめいどショップ、各種出店で販売

染め和紙製品

（マスクケース）

- ・京都府山城広域振興局より 2000個
- ・伊勢田学区福祉委員会 125個
- ・宇治市（男女共同参画課）500個

その他

箱編み製品（マフラー・帽子・ネックウォーマー・レッグウォーマー）

手編み製品（座布団・アクリルたわし・ペットボトルカバー）

ソックラビット NaNairo ストラップ ポチ袋

クリスマスツリー50個

評価

2021年度も新型コロナウイルスによる販売機会の減少、それに伴う売り上げ減が見込まれ、利用者工賃にも影響が及ぶこともあり、宇治市による自主製品の一括購入がありました。

2020年度に続き、季節の自主製品として販売したクリスマスツリーも少しアレンジをし、利用者も熱心に取り組みました。

新規の大量注文などもあり、他の作業との調整を図りながら製品づくりにも勤しんだ1年となりました。

次年度に向けては、さらしを染めてハンカチや手ぬぐいを製作したりなど多様な製品づくりに取り組んでいきたいと思えます。

ゆめカフェ

実施曜日

毎週金曜日（月4～5回）

実施時間

11:30～14:00（ラストオーダー13:30）

利用者

4名ほど

- ・1日およそ30食程度の食数が出ます。
- ・2012年からはじめて10年目になります。

評価

・2021年度は2回緊急事態宣言が発令され、ゆめカフェをお休みさせて頂きました。まん延防止の時は感染予防対策を強化し、新しく非接触型体温計を導入し設備も整えて開店しておりました。前年度の経験を活かし、(アルコール消毒設置、検温、仕切りアクリル板設置、お客様の入店人数制限、スタッフ・利用者の健康チェックなどの予防対策をしっかりと行い、週1回(金曜日)開店作業に取り組むことができました。

・2021年6月～HACCP導入運用が完全義務化となり、前年度から準備し着実に進めていた衛生管理表を作成し毎日記録チェックをし、記入作成も習慣化され、スムーズにスタートすることができました。引き続き今後もしっかりとHACCPを運用していくように心がけていきます。

製菓・出張喫茶(一部物品を含む)

- 心身障害者福祉センター（京都府社会福祉事業団）
定例出店 毎月最終火曜日 5回(新型コロナウイルスの為回数が減っています)
- 介護教室(宇治市小倉明星園)新型コロナウイルスの為販売はありませんでした。
- 宇治市役所 販売年間16回
京都府振興局販売は全6回ありましたが、2回しか行けませんでした。
(オープンカフェの販売と重なり出店が減りました)
- オープンカフェ 年間10回
- 生涯学習センター販売 水・土 年間55回
- 事業所や個人様からの依頼によりお菓子の委託販売
- その他出店 宇治市植物公園販売、うじ・はんどめいどフェア (Izumiya)、
あさぎりフェスティバル、茶づな DE マルシェ

評価

2021年度も新型コロナウイルスの影響を受け、販売が少なくなりました。その為、日々の製菓作業はゆとりを持って、個々の利用者に関わることができました。

お菓子作りが初めての利用者には、ユニフォームを着るところから、慣れない着衣や手洗いに30分かかる方もおられましたが、1年を通してより早く準備等ができるようになりました。計量、割る、ふるう、混ぜる、洗う、拭く、包装するなどの作業で個々の苦手な部分は仲間に助けてもらいながら、販売に行って自分が作ったものをお客様に購入して頂き、喜びが感じられる1年になりました。

また、ゆめカフェで出すデザート作りも月2回程行い、ゆめカフェのメニューを楽しみにしておられる利用者もおられます。今後は利用者と話し合っってどんな物を作ったら喜ばれるかな？どんなものが食べたい？など相談しながら働く意欲に繋げていきたいと思ひます。